

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおけるこれまでの主な配布資料

### ●家庭、技術・家庭ワーキンググループ(第4回)(平成28年2月17日)配布資料

- 資料5 技術・家庭科(技術分野)における教育のイメージ(たたき台)
- 資料6 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における教育のイメージ(たたき台)
- 資料7 技術・家庭(技術分野)において育成すべき資質・能力の整理(たたき台)
- 資料8 技術・家庭(技術分野)の見方や考え方の整理(たたき台)
- 資料9 技術・家庭科(技術分野)の学習プロセスの例(たたき台)
- 資料10 技術・家庭科(技術分野)の改訂の方向性(たたき台)

### ●家庭、技術・家庭ワーキンググループ(第5回)(平成28年2月17日)配布資料

- 資料4 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)において育成すべき資質・能力の整理(たたき台)
- 資料5 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習プロセスの例(たたき台)
- 資料6 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の内容構成の方向性イメージ(たたき台)

# 技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ（たたき台）

平成28年2月17日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料5

## 【高等学校】

（情報の共通必修科目）

- 情報とそれを扱う技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方の育成
- 情報モラル、知的財産の保護、情報安全等に対する実践的な態度の育成

（職業に関する各教科・科目）

- 各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術の習得と、各職業の社会的意義や役割の理解
- 各職業分野に関わる課題（職業能力の専門性の深化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）に対して、職業人としての倫理観をもって、主体的・協働的に取り組み、合理的かつ創造的に解決する能力の育成
- 産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性、産業の振興や社会に貢献しようとする態度及び社会の変化に対応して学び続ける態度の育成

## 【中学校】

- 社会で利用されている主な技術についての基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、技術と社会や環境との関わりについて理解を深める。
- 技術を用いてよりよい生活を工夫し創造できるよう、技術分野固有の見方や考え方（技術の特性に着目し、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等の面からの見方・考え方）を踏まえ、技術を選択、管理・運用したり、自分なりの新しい考え方やとらえ方によって改良、統合したりできる能力を育成する。
- 技術について関心をもち、持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を用いてよりよい生活を工夫し創造していこうとする態度を育成する。
- 生活における問題について課題を設定し、技術分野固有の見方や考え方を踏まえて、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価する学習活動を充実する
- 技術革新及びそれを担う職業分野への関心、生産などの経済的主体等として求められる勤労観、情報活用能力、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度、使用者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観等の育成に努める。

## 【小学校】

- 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表す（図画工作）
- 材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる（図画工作）
- 身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）
- ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や働き、規則性についての実感を伴った理解を図る（理科）
- 道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳） 等

## 【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- 物との多様なかわりかたの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。
- 身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使う。
- 身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気付き、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。 等

技術で問題解決をする範囲と影響を及ぼす範囲

社会全体・地球環境・未来

生活範囲・地域環境・現在

※技術をまずは  
見つける

# 技術・家庭科（技術分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年2月17日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料7

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力, 人間性等 情意, 態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
高等学校	-----	-----	-----
中学校	<p>○技術に関する科学的な理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料, 加工, エネルギー変換, 生物育成, 情報等の技術に用いられている科学的な原理・法則</li> <li>・技術を安全・適切に管理・運用できる技能</li> <li>・生活や産業の基盤となる高度な技術や伝統的な技術と, 社会・環境との関わりの理解</li> </ul>	<p>○技術分野固有の見方や考え方（倫理観を含む）を踏まえて、技術を用いてよりよい生活を工夫し創造する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活における問題の中から技術を用いて解決すべき課題を見出す力</li> <li>・生活における課題解決のために, 適切な技術を選択、管理・運用したり、自分なりの新しい考え方やとらえ方によって改良, 統合したりする力</li> <li>・技術による解決のための方策を製作図、作業計画等に表す力</li> </ul>	<p>○持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を用いてよりよい生活を工夫・創造していこうとする態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術革新やそれを担う職業分野への関心、勤労観</li> <li>・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度</li> <li>・自らの問題解決及びその過程をふり返り改善しようとする態度</li> </ul>
小学校	-----	-----	-----

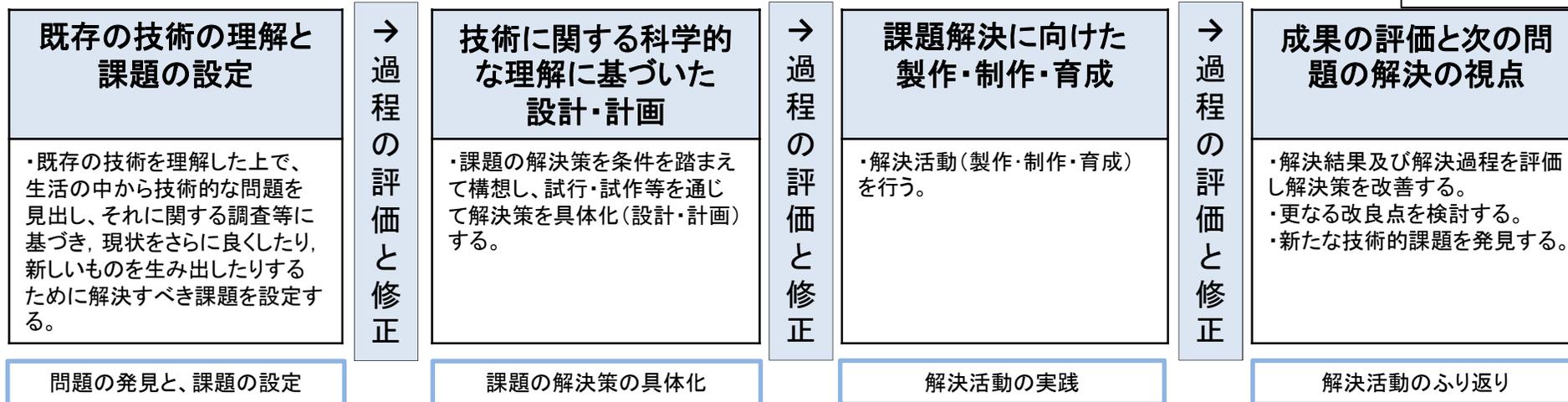
# 技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

技術分野特有の見方や考え方：技術を利用して問題を解決する際の見方や考え方

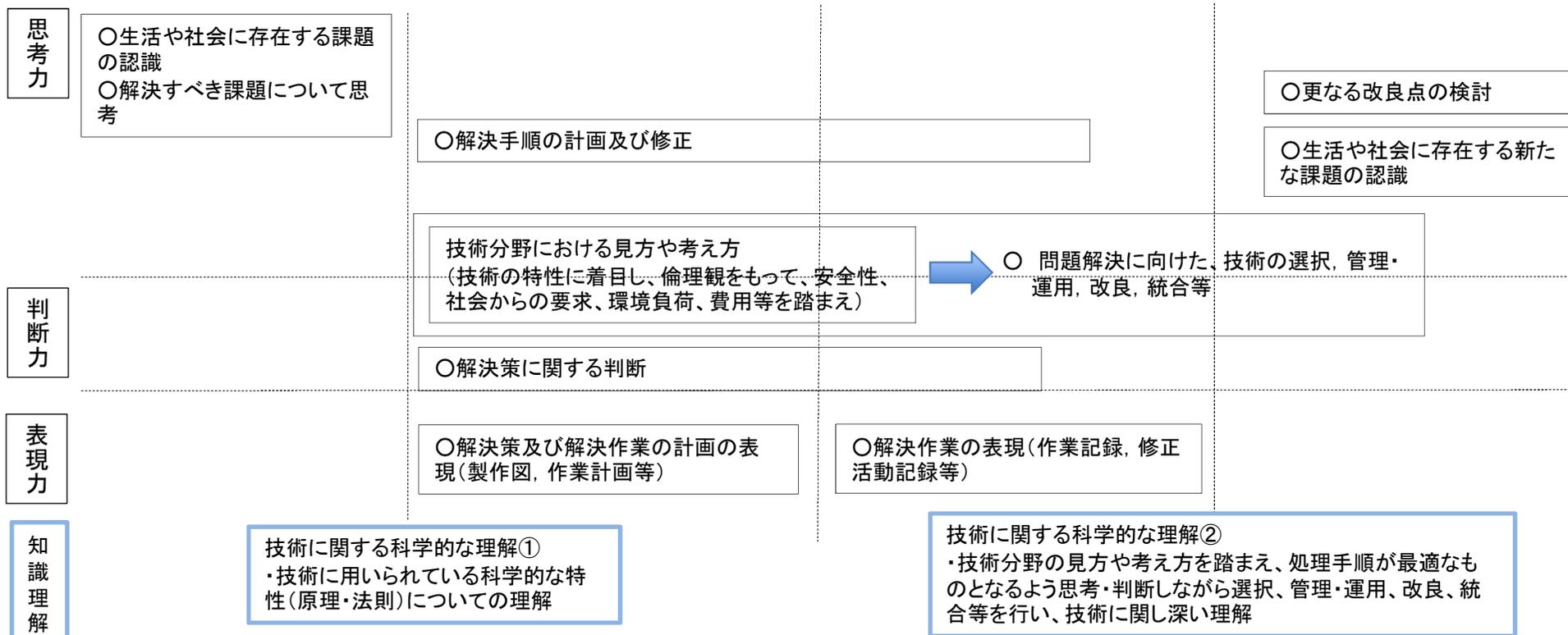
	対象	見方や考え方	技術分野の思考・判断の例	
技術分野	社会で利用されている技術について、	物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、	材料の生成・成形、エネルギーの変換・伝達、生物の育成環境、情報の処理手順等を最適なものとするための思考・判断	
内容A	材料の技術について	構成する物質の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の生成方法が最適なものとなるよう	選択、管理・運用すること
	加工の技術について	材料の性質や構造、加工の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の必要な形状・寸法への成形方法が最適なものとなるよう	選択、管理・運用改良すること
内容B	生物育成の技術について	育成する生物の成長、はたらき、生態の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、生産のしやすさ、環境への負荷、品質・収量等の効率面、生命倫理等を踏まえつつ	生物の育成環境の調節方法が最適なものとなるよう	選択、管理・運用すること
内容C	エネルギー変換の技術について	電気、運動、物質の流れ、熱の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、出力、環境への負荷、省エネルギー等を踏まえつつ	エネルギーの変換、伝達、利用する方法が最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良すること
内容D	情報の技術について	情報の表現、記録、計算の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、情報の倫理やモラル、活用、管理、システム等を踏まえつつ	情報のデジタル化や計算化による処理の方法が最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良、統合すること

# 技術・家庭科（技術分野）の学習プロセスの例（たたき台）

平成28年2月17日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料9



【目指す資質・能力】 ※下記に示す各プロセスは例示であり、下例に限定されるものではないこと



# 技術・家庭科（技術分野）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年2月17日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料10

## 現行学習指導要領

### A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術
- (2) 材料と加工法
- (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作

### B エネルギー変換に関する技術

- (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検
- (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作

### C 生物育成に関する技術

- (1) 生物の生育環境と育成技術
- (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育

### D 情報に関する技術

- (1) 情報通信ネットワークと情報モラル
- (2) デジタル作品の設計・制作
- (3) プログラムによる計測・制御

## 検討事項

### 技術分野の見方や考え方

社会で利用されている技術について、物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、技術の利用に当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえる見方や考え方

### 「論点整理」における指摘事項

- ・技術と社会・環境との関わりの理解の充実
- ・プログラミングや情報セキュリティ等も含めた情報活用能力の育成等の充実
- ・小学校図画工作科、高等学校情報科、職業に関する教科・科目等との関連
- ・育成すべき資質・能力の明確化
- ・技術に関する科学的な理解
- ・技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力
- ・技術を創造し、よりよい社会を構築できる力

## 今後の方向性(案)

### 目指す資質・能力等

#### ○技術に関する科学的な理解（技術に関する知識・技能）

社会で利用されている主な技術についての知識・技術、及びそれらと社会や環境との関わりの理解。

#### ○技術を用いてよりよい生活を工夫し創造する能力

技術を用いてよりよい生活を工夫し創造できるよう、技術分野固有の見方や考え方を踏まえ、技術を選択、管理・運用したり、自分なりの新しい考え方やとらえ方によって改良、統合したりできる能力

#### ○技術を用いてよりよい生活を工夫し創造していこうとする態度

技術について関心をもち、持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を用いてよりよい生活を工夫し創造していこうとする態度

### 内 容

#### A 材料と加工の技術

- 社会を支える材料と加工の技術
- 材料と加工の技術による問題解決
- 社会の発展と材料と加工の技術

#### B 生物育成の技術

- 社会を支える生物育成の技術
- 生物育成の技術による問題解決
- 社会の発展と生物育成の技術

#### C エネルギー変換の技術

- 社会を支えるエネルギー変換の技術
- エネルギー変換の技術による問題解決
- 社会の発展とエネルギー変換の技術

#### D 情報の技術

- 社会を支える情報の技術
- コンピュータ・ネットワークによる問題解決  
(動的コンテンツのプログラミング)
- 機器の自動化による問題解決  
(計測・制御のプログラミング)
- 社会の発展と情報の技術

空間軸 時間軸

## 【高等学校】 共通教科

- 実践的・体験的な学習活動を通して、生活を科学的に理解し、自立した生活者として必要な知識及び技術を習得する。
- 生涯を見通した生活の課題を解決するために、家庭科における見方や考え方を踏まえて生活を科学的に探究し、多面的に解決方法を考え、安心して充実した生活を創造する能力を養う。
- 様々な年代の人と関係を深め、主体的に地域社会に参画し、社会の一員として、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」などの問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(子育て支援等の理解、高齢者の理解等、生涯生活設計能力)、生活課題を解決するために必要な社会参画力、他者と共生するためのコミュニケーション能力、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力、日本の生活文化を継承・創造する力等を育成する学習活動を充実する。

社会

生涯を見通した生活

## 【中学校】

- 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。
- これからの生活を展望して、生活の中から課題を見だし、身に付けた知識と技術を家庭分野における見方や考え方を踏まえて活用し、生活を工夫し創造する能力を養う。
- 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」などの問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(家庭の機能や幼児理解、高齢者との交流等)、食生活の自立を図る力、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる力、日本の生活文化を継承する力等を育成する学習活動を充実する。

地域

これからの生活

## 【小学校(高学年)】

- 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。
- 生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を家庭科における見方や考え方を踏まえて活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を養う。
- 家庭生活への関心を高め、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。
- 家庭や地域と連携を図り、問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(家庭生活と家族の大切さなど)、健康で安全な食生活の基礎となる力、消費・環境に配慮した生活の仕方を工夫する力等を育成するとともに、日本の生活文化の大切さに気付くための学習活動を充実する。

家庭

現在までの生活

## 【小学校(低・中学年)】

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等

## 【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気付き、自分でする。
- 親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ。 等

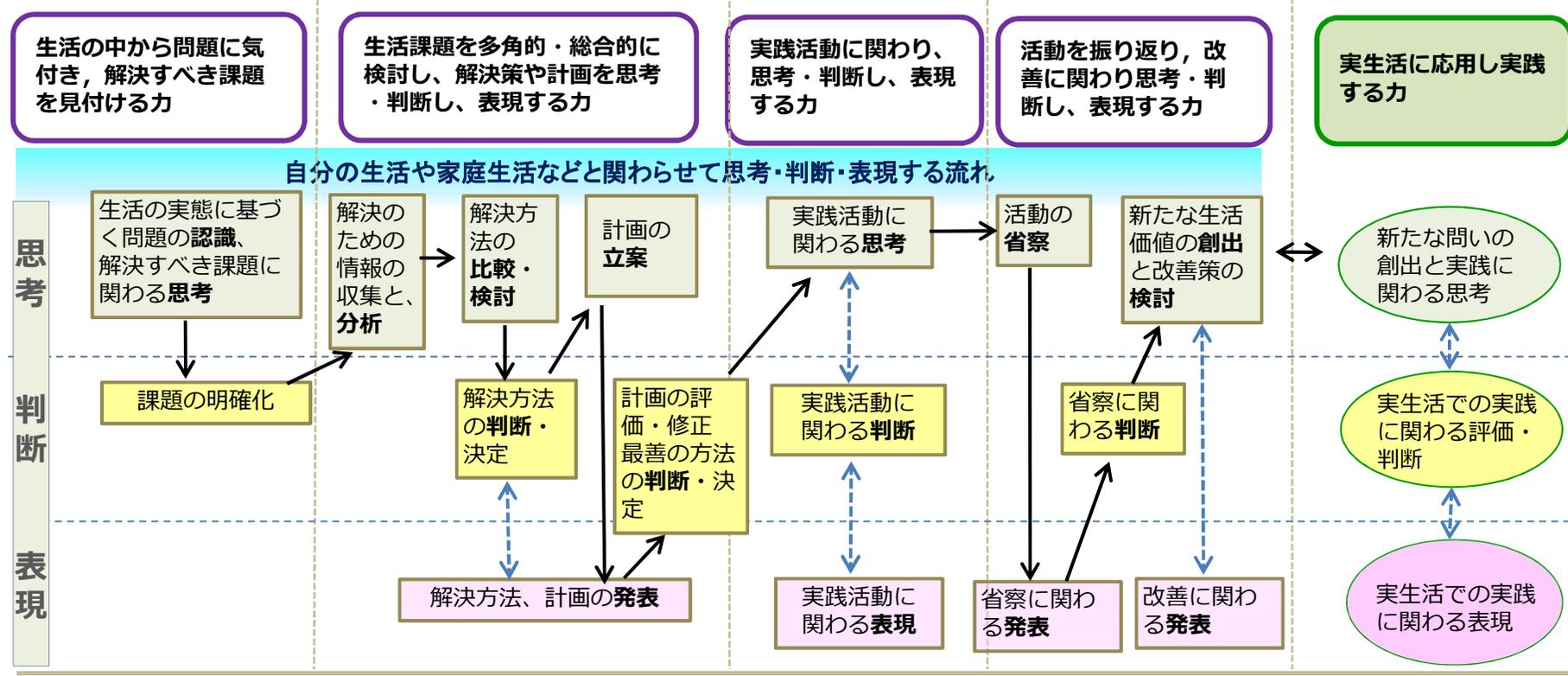
# 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
家庭 高等学校 (共通教科)	<p>自立した生活者として必要な知識・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する知識・理解、技術</li> <li>・生涯の生活設計に関する知識・理解</li> <li>・各ライフステージに対応した衣食住に関する知識・理解、技術</li> <li>・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための知識・理解、技術</li> </ul>	<p>家庭科における見方や考え方を踏まえて、自立した生活者として、生涯を見通して課題を解決し、生活の中で活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象を他の生活事象と関連付け、生涯を見通した視点から多角的に考察する。</li> <li>・家族・家庭や地域社会における問題を課題として把握し、解決策を構想・判断し、計画・実践・評価する。</li> <li>・科学的な根拠や理由を明確にして、観察、実験・実習等について、図表などを用いて論理的に説明したり、発表したりする。</li> <li>・自分の考えを批判的に検討したり、家庭・地域社会に発信したりするために、他者と意見交流する。</li> </ul>	<p>家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に地域社会に参画しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度</li> </ul>
技術・家庭 中学校	<p>生活者として自立するために必要な基礎的・基本的な知識・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の基本的な機能及び家族、幼児、高齢者に関する知識・理解</li> <li>・生活の自立に必要な衣食住に関する知識・理解、技術</li> <li>・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するために基礎となる知識・理解、技術</li> </ul>	<p>技術・家庭科(家庭分野)における見方や考え方を踏まえて、これからの生活を展望して、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象を他の生活事象と関連付け、総合的に考察する。</li> <li>・家族・家庭や地域における問題を課題として把握し、解決策を構想・判断し、計画・実践・評価する。</li> <li>・根拠や理由を明確にして、観察、実験・実習等について、図表などを用いて論理的に説明したり、発表したりする。</li> <li>・自分の考えを批判的に検討するために、他者と意見交流する。</li> </ul>	<p>自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々と関わり、協働しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承しようとする態度</li> </ul>
家庭 小学校	<p>家族の一員として日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭生活に関する知識・理解</li> <li>・生活の自立の基礎として必要な衣食住に関する知識・理解、技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解、技能</li> </ul>	<p>家庭科における見方や考え方を踏まえて、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象を他の生活事象と関連付けて考察する。</li> <li>・日常生活における問題を課題として把握し、解決策を構想・判断し、計画・実践・評価する。</li> <li>・根拠や理由を明確にして、観察、実験・実習等について、わかりやすく説明したり、発表したりする。</li> <li>・他者の意見を聞いたり、自分の考えをわかりやすく主張したりして意見交流する。</li> </ul>	<p>家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を大切にしている心情</li> <li>・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度</li> <li>・生活をしようとする態度</li> <li>・日本の生活文化への関心</li> </ul>

# 家庭科，技術・家庭（家庭分野）の学習プロセス(たたき台)

生活の課題発見		解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
生活を見つめる	課題を設定する	生活に関わる科学的理解に基づいた解決方法を立案・検討し、決定する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる科学的知識や技能・技術を活用して、調査や調理、製作、交流活動などを行う	結果を評価し、振り返る	結果を発表し、改善策を検討する	

【思考力・判断力・表現力等】 ※下記のプロセスは例示である。

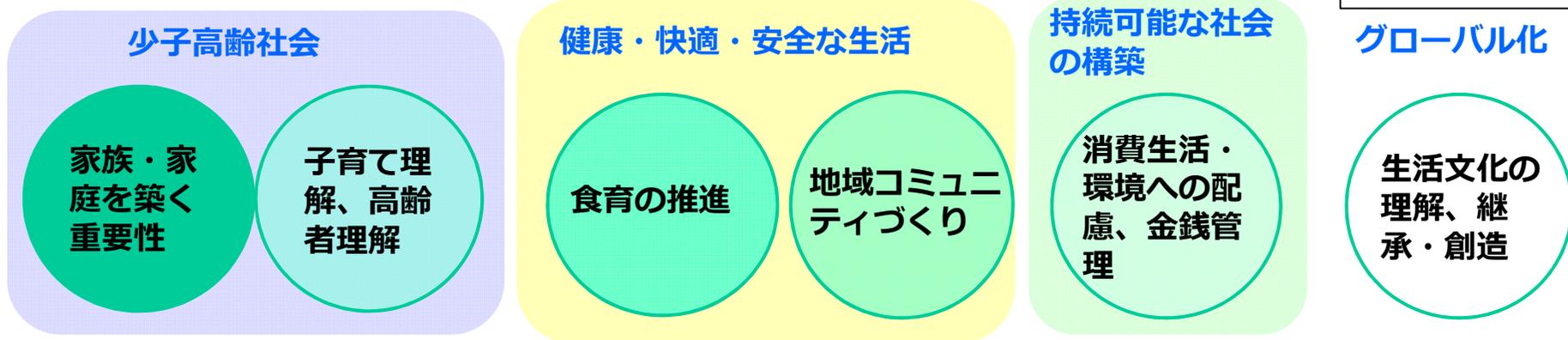


→ 思考の道すじ

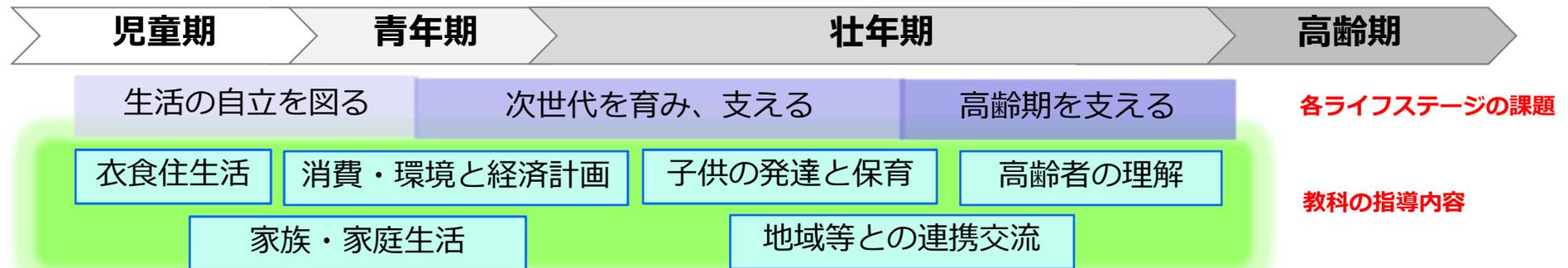
# 家庭科，技術・家庭科（家庭分野）の内容構成の方向性イメージ(たたき台)

平成28年2月17日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料6

## 社会の変化への対応



## 他者と共生し自立した生活、生涯を見通した生活



### 教育課程企画特別部会 論点整理 (平成27年8月) より

#### ⑩家庭、技術・家庭

(中略)

- 一方で、家庭科及び家庭分野においては、生活の科学的な理解や、生活課題を解決する能力と実践的な態度を育成すること等について、更なる充実が求められるところである。次期改訂に向けては、幼児期に育まれたいろいろな人との関わりや健康な心と体等の基礎の上に、小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、各学校段階を通じて、**家庭や社会とのつながりを重視**するとともに、**少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力**や、**他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力**の育成等を図っていくことが求められる。